

訃 報

——謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

安田 正 殿(応用理学)	令和 5 年 9 月 1 日逝去 81 歳
萬 昌幸 殿(建設)	令和 5 年 9 月 12 日逝去 80 歳
後藤 良忠 殿(農業)	令和 5 年 5 月 18 日逝去 84 歳

■ ■ ■ 編 集 後 記 ■ ■ ■

今年の年明けは珍しく雪が降らなかったため、除雪がなくとてもゆったりしたお正月を迎えられると思っていました。さて、のんびりとお正月のご飯の支度をし始めた頃、「本州の方で地震が起きたみたい」と家族が知らせてくれたので、テレビで確認するととても大きな地震が能登半島で起きていました。能登半島の思い出は、1 回目は、45 年前友人と二人で旅行したことが思い出されます。とても広い砂浜で自動車がかんりのスピードで走行できる千里浜なぎさドライブウェイ、バス旅の途中でおいていかれてしまった気多大社(あとで運転手さんが気づいて迎えに来てくれた)、あまりに高級でみるだけだった輪島塗などです。また行ってみたいと思っていた頃、ビーチロック(海の近くに生息する微生物が生活する中で排出する二酸化炭素と酵素の力で砂粒を固結させてできた砂の岩)を探しに行く仕事があり、休憩で立ち寄った千枚田の近くの道の駅、その後もう一度行ってみたいと旅行した千枚田と輪島の朝市などがどうなったかと思いました。その後のニュースで地震により大変被災したことを改めて知りました。

被害の報告が続く中、2 日には羽田空港で飛行機の接触事故が報道されました。能登の被災地域に支援物資を運ぶ飛行機と知り、いたたまれない気持ちになりました。

波乱の幕開けとなった令和 6 年ですが、震災の復興が進んできているという少しだけですが、先に進んでいるというニュースも流れるようになってきました。私に何ができるかはよくわかりませんが、もし災害に遭ったら自分自身で対処できるよう日々心がけていこうと改めて感じた年明けでした。まだ停電や断水が続いており生活が大変ですが、災害に遭われた方々の一日も早い復興を願うばかりです。

第 162 号編集担当 佐 藤 厚 子